



つづく つながる 夢を育てる学び舎

国立二小だより

令和4年(2022年)11月25日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

二小の夢がつながった 輝く個性と一生懸命の尊さ

校長 小林 理人

先週は体育館で展覧会が開催されました。子供たちが楽しみながら一生懸命つくった作品が体育館に展示され、体育館は子供たちの夢でいっぱいになりました。継続するコロナ禍での開催ということもあり、4日間の分散開催となりましたが、たくさんの保護者の皆様や地域の皆様、旧職員や卒業生など二小の展覧会を楽しみにしてくださっている皆様にご来校いただくことができました。

また、開催期間中に感染拡大防止のため2つの学級の閉鎖を行いました。さらに感染症に加え風邪の流行等も重なり長期間欠席をした児童もいたために開催期間を延長し、22日(火)までとしました。

様々な想定外の状況の中、保護者や地域の皆様の温かいご支援とご協力により展覧会を開催できたことに心から感謝申し上げます。

展覧会は2年に1度開催される教育活動の発表会です。私たちが日常の教育活動で大切にしていることが子供たちの作品に表現されます。私にとって5回目の展覧会になりますが、毎回必ず感じるがあります。それは子供たちの輝く個性と一生懸命に行うことの尊さです。この2つのことは子供たちが保護者や地域の皆様と共に育んだ国立二小の子供たちの素晴らしさだと感じています。

1年生はカラフルなちょうちんの絵に挑戦しました。紙で作ったちょうちんと背景の絵を組み合わせでお気に入りの世界を表現しました。色遣いやちょうちんの配置など一人一人の個性を感じました。

2年生のコーナーには子供たちの好きな食べ物を並べたお皿や夢の生活を営むマンションがありました。子供たちが作品づくりを楽しみながら夢を膨らませていった様子が目に浮かびました。

3年生は木工です。子供たちは初めて手にするのこぎりやトンカチを使って楽しみながら夢いっぱいの空間をつくりあげました。木材に打ち付けてある一本一本の釘から子供たちの思いを感じました。

4年生は運動会で表現したエイサーのイメージを生かして、沖縄の守り神であるシーサーを使った作品で表現しました。シーサーの表情や配置などから子供たちが伝えたい物語や願いを感じました。

5年生は限られた資源を有効に活用し、自分の夢や理想を木工の椅子で表現しました。限られた材料を有効に使うことや自分の思いを形にすることなどSDGsにつながる作品ができました。

6年生は6年間の思い出や自分の大切な物など絵を通して伝えたいことをしっかりと決めて取り組んだ最高学年らしい作品です。一人一人の作品を6年間の成長と重ねながら見せてもらいました。

そして、プラタナスの子供たちも同学年の子供たちと一緒に取り組んだり、プラタナスの教室やお家に持ち帰って丁寧に仕上げりして、一人一人の個性を活かした作品をつくりました。また、副籍交流のお友達の作品も展示され、良さを認め合ったり交流を深めたりすることができました。

今回も展覧会実行委員会の子供たちの発案により、会場で見つけた「いいね」を書いて伝え合う「えのっちコーナー」を設置しました。そして、低・中・高学年ごとに用意されたボードには子供たちや皆様からの心温まるたくさんのふわふわメッセージが貼られました。

「上手だね。」「すごかったいいね。」「自分も作りたくなりました。」など作品の良さを伝えたメッセージに加え、「心が明るくなりました。」「元気をもらいました。」「夢がふくらみました。」など感謝や感動を伝えるメッセージもたくさんありました。そして、そのメッセージを子供たちや教職員が嬉しそうに読んでいました。

私もボードいっぱい貼られたメッセージを読ませていただき、国立二小の子供たちの素晴らしさを改めて感じ、二小の夢がしっかりとつながったことを確かめることができました。そして、保護者の皆様や地域の方の温かさを改めて感じ感謝の気持ちで一杯になりました。

展覧会マスコット「えのっち」